KANDAI×CHUO×HOSEI
SDGsアクションプランコンテスト2026
～持続可能な未来のために私たちができること～
エントリーシート

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2.SDGsアクションプランタイトル／概要（必須）

タイトルを記入ください（30文字以内）

JK＆DKが作る地域交流の場
～今必要とされているものとは～

アクションプランの概要を記入ください（300字程度）

高校生と様々な世代との地域でのつながりの少なさを解消したいと考え、高校生が主体となった地域交流拠点の構築を目指しています。自治体などが主催する地域交流の場は存在していますが、高校生など若い世代も広く巻き込んでいる場とは言い難いのが現状です。そのため若年層と中高年世代、高齢者世代をつなぐことを目指し若年層である高校生の視点から主催する交流の場を作っていきます。具体的な交流の内容としてはスマホをテーマにした交流会でデジタルデバイドの解消を目的としたイベントを実施しました。また、その時に得た情報をもとに一時避難場所に指定されている私たちの学校で避難後・避難生活について考えるイベントを計画しています。これらは手段の一つであって、アクションプランの主軸は、ますます少子化、高齢化していく社会に世代間の交流の場を構築することに重点を置き、住み続けられる街を目指したいです。

3.課題設定（必須）

プラン発案のきっかけや動機、その想いを記入ください（400字～500字以内）

私たちの学校は、東京女子大の跡地に建てられました。しかし、移転してからまだそれほど時間が経っていないこともあり、地域住民の方々とのつながりは、まだ十分に深まっていないと感じています。学校は勉強をするだけの場所ではなく、地域の方々と関わりながら、互いに支え合う場所にもなれるのではないかと思ったことが、このプランを考えたきっかけです。

そこで、地域の方々と本校の生徒が交流できる機会をつくりたいと考えました。例えば、地域の方々を学校に招いて様々なテーマで交流会を開くことで、世代を超えたつながりを生み出せるのではないかと思いました。また、地域の方々から昔の学校や地域の歴史について話を聞くことで、私たちが知らなかった地域の魅力を知ることもできるのではないかと思いました。

この活動を通して、地域の方々に本校をより身近に感じてもらい、「この学校があってよかった」と思ってもらえるような関係を築いていき、そして、学校と地域が互いに協力し合い、これからの未来を一緒につくっていくことを目指したいです。

4-1.ありたい姿・SDGsゴールとの関連（必須）

どのようなことを課題と捉え、あなたが解決したいゴール・ターゲットはなにか（ 400字～500字以内）

私たちの考える課題

私たちの考える課題は高校生と地域のつながりの希薄さです。私たち高校生は実際、家と学校や塾などを行き来する生活が中心で地域の方々やコミュニティと関わる機会が少ないです。また、私たちの学校は「地域に愛される学校」を目指しているものの地域の実情を十分に把握できておらず、地域と継続的に関わる具体的な活動はまだ十分ではない現状があります。

解決したいゴール・ターゲット

- 私たちはまず、上記の課題を解決するため、高校生主体の「地域交流拠点」をつくり、高校生と地域の方々が交流しながら地域の課題を発見し、解決に向けて一緒に行動できる仕組みを構築します。その中で、デジタルデバイド（情報格差）や、地震などの大規模災害が発生した際に地域で助け合える体制づくりにも取り組みます。これは、SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」のターゲット11.3である「誰もが参加できる持続可能なまちづくりの計画・実施能力を高める」ことにつながると考えています。高校生も地域住民もまちづくりの担い手となり、世代を超えて支え合える地域を目指していきます。

4-2.ありたい姿・SDGsゴールとの関連（必須）

提案するプランの独自性、特長はなにか（ 400字～500字以内）

提案するプランの特長

1.双方が協力しあえる関係
　地域交流拠点は単に高校生が地域の方を「支援する場」としないことです。高校生はプランを企画する上では中心となりながらも地域の方々とのやり取りを大切にし、互いの知識や経験を共有し、活かしながら補い合う、双方向の関係を築くことを目指します。

2.発展性
 地域の変化に応じて発展し続けられることです。地域の方々との交流を通して課題を発見し、共に解決策を考え、実行するサイクルをつくることで、情報格差だけでなく、災害時の協力体制など、新たな課題にも対応できるようになることを目指します。

3.継続性
 活動を次の世代へ引き継ぎやすいことです。現在プログラムを企画しているメンバーが卒業した後も地域交流拠点の運営・発展を委員会活動として引き継ぎ、法政大学高校の生徒が定期的に運営し、学校が地域との橋渡し役となることで、活動を継続していけるような体制を作ることを目指します。

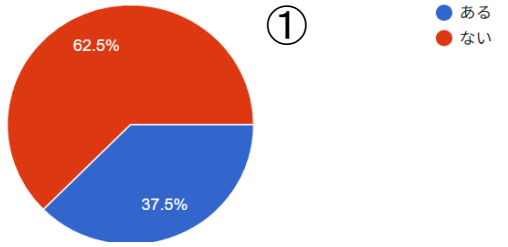
5.プランを実行した際の効果または今後の展開について（必須）

発案したプランをおこなうことで、設定した課題がどのように解決されるのか、またはすでに実践されたプランの場合は、今後の展開について記入ください（ 400字～500字以内）

近年、若者と高齢者の間でスマホによる格差があるというニュースを聞くため、実際にどのくらい格差が開いているのかを知るために地域交流もかねてこの講習を開きました。
そして講習のあと行ったアンケートにて参加者の過半数の人がスマホを誰かに教わる機会がなかった、若者に比べて格差を感じることがあったという結果から現状を知ることができました。
この講習の結果約9割もの人が苦手意識を緩和でき、デジタルデバイドの解消を進めることができました。今後はデジタルデバイドを無くすという目標だけではなく、地域の問題をお互いの長所を活かし合い、新しい問題も解決できるwinwinの関係を気づきたいなと考えました。また、話を聞いていく中でデジタルデバイド以外にもいろいろな問題が浮き彫りになってきています。具体的には地震などの災害に対する事後対応に課題があると感じており、実際には令和8年熊本地震がスマホ交流会の開催直前に発生しました。この地震に関する情報で避難生活の長期化・深刻化という点に注目し、東京近辺で発生した場合の対策を学校と地域で協議していくことを目指していきたいと考えています。

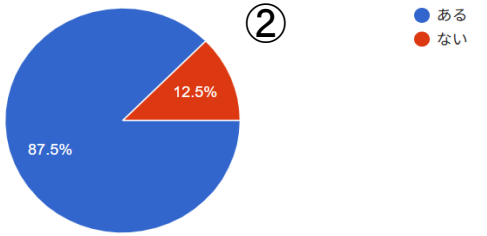
スマホを誰かに教えてもらう機会がありますか

8 件の回答



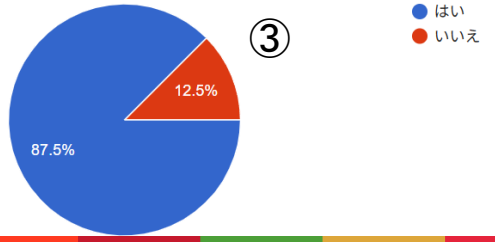
若者に比べて格差を感じることがありますか

8 件の回答



このイベントを通してスマホに対する苦手意識などは減りましたか

8 件の回答



6.行動計画（必須）

プランを実行するためのスケジュール（行動計画）、またプラン実行にかかわるパートナーについて時間軸と合わせて示してください。

初めのテーマ：世代間のデジタルデバイドを無くす
8/8　スマホをテーマにした地域交流会を実施

今のテーマ：継続可能な地域交流
～今後の計画～
学校と地域の継続可能な交流として役立たせます。また、学校の防災意識向上を目的として、実際に備蓄されている非常食・防災グッズを使った体験会を計画し、災害がいつ発生しても対応できる体制を目指します。 今後、学校の防災担当や既にノウハウがあるNPO、このような活動を支援してくれた市民共同センターなどとも連携していきたいと考えています。

7.全体イメージや写真など（任意）

プラン内容の全体イメージ、概念図など

始めは、デジタルデバイドを世代間でなくすことを目標にしていたので、学校のある三鷹市の市民共同センターで8月8日にスマホをテーマにした地域交流会を行いました。スマホの具体的な使い方は、ドコモショップなどの携帯会社でもできるので、JK＆DKならではのスマホ講座とは何かと考え、z世代でやってない人はいないであろうMBTI診断や、ChatGPTなどのAIの活用方法を実際に試してお互いの実体験を共有し合い、楽しく実りある交流会になりました。今後も、様々なテーマで、地域の皆さんと定期的に交流して、愛される学校を目指していきたいです。